

連続テレビ小説「ばけばけ」で話題



小泉八雲と銚子の漸

サカサバシラ



ロクロクビ

画像提供 小泉八雲記念館



怪談

明治にアメリカから日本へ移り住み、日本各地の民謡や怪談を英語で紹介しました。「耳なし芳」「雪女」「ろくろ首」など有名です。怪奇小説作家であり、日本文化の語り部でもありました。紹介した民謡の中には「銚子大漁節」も。「稻むらの火」の逸話も英語で紹介しています。「ばけばけ」やオカルトがテー

マのアニメの流行など、脚光を浴びている怪談。この機会に、八雲と銚子のつながりに、興味を持つ人が増えると嬉しいのですが。妖怪も、忘れられたら出てこられないと言います。実は一番こわいのは人の心なのかも。

【ばけばけ】

明治の松江を舞台に怪談を愛する小泉セツと八雲夫妻をモデルにした物語。

1850年、ギリシャ西部のレフカダ島で生まれる。

日本の怪談を世界に

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)

1890年、松江にある島根県尋常中学校の英語教師に。1896年には松江の士族の娘、小泉セツと正式に結婚し、日本に帰化。1904年、新宿大久保の自宅で亡くなる(54歳)。翻訳・紀行文・再話文学のジャンルを中心に約30の作品を遺しました。

〔妖怪を紹介〕

小泉八雲の妖怪画『小泉八雲秘稿画本 妖魔詩話』より

フナユウレイ

ウミボウズ

ユキオンナ

フルツバキ



漁師の数え歌 銚子大漁節

明治33(1900)年、『日本の古い民謡』の中で漁師の数え歌として歌詞を英訳。

大漁を祝う囃子と力強い掛け声、波間に響く民謡は八雲が愛した日本の息づかいそのもの。

津波防災の学び 稻むらの火

「A Living God」として逸話を紹介。

1854年、安政南海地震の際、稻むらに火を放ち村人を高台に導いた津波防災の話。主人公の五兵衛のモデルはヤマサ醤油の七代目濱口儀兵衛(梧陵)。

◆◆◆ 安政南海地震があった11月5日の避難訓練